ブックマークの自動管理システムの開発

03H074 中前 嘉人

1　目的

本研究では、自動でブックマークを追加するシステムである ABM[*1]と、ABM を情報共有に特化させた EBM[*2] を用いて EBMng[*3]の開発をおこなう。EBMng は今まで以上に情報を共有出来るようにすることを目的とする。

2　ブックマークの自動管理システムとは

現在インターネットは世界中の人が利用しており、いろいろな人がいろいろなことを調べている。調べていると、ブックマークに登録していない Web ページでも利用頻度が高い Web ページもある。そのような Web ページの URL を自動で収集し表示されるように出来ると便利になると考えられる。また、利用頻度が高くなくとも調べているときに重要な情報を得ることもある。それら全ての URL の履歴を自動で保存し表示することによってブックマーク登録の手間を省く。そうすることによって URL や検索するキーワードがわからなくなった場合でも容易に過去に見た欲しい Web ページの情報を手に入れることが可能になる。

Web ブラウザには Web のアクセス履歴を残す機能がある。しかし、使用した PC にしか履歴は残っていないので他の PC ではアクセス履歴を見ることができない。EBMng は研究室外でも使用できるので Web ブラウザの機能より使用し易くなる。

研究室内では Web ページにアクセスするのに proxy サーバを経由させているので proxy サーバに Web ページのアクセス履歴が残る。本研究では proxy サーバに蓄積されているアクセス履歴を使用して研究を進める。情報安全工学研究室内で使用している proxy サーバソフトウェアは squid というソフトウェアを使用している。squid には ident デーモンを使用して Web ページ毎に閲覧したユーザ名を記録する機能があるので、この機能を使いユーザを識別する。

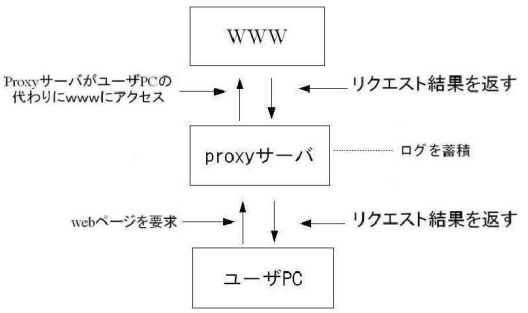

図 1　access log の蓄積

本研究では ABM と EBM という情報安全工学卒業研究室の先輩が作った二つのシステムを利用して新しいブックマーク管理システム EBMng 開発することを目的とする。

3　まとめ

- 改善点

従来の ABM の仕様を変更したことによって、自分以外のユーザが持っている情報を得ることが出来るようになった。また、キーワードを登録機能を作ったことによって全ユーザの Web ページのアクセス履歴のキーワードを含む URL を自動で抽出するようにした。機能を追加したことによって自力で調べていると時間のかかることでも他のユーザの履歴から情報を得ることで情報検索の時間の節約に繋がった。

- 今後の課題

1 つの Web ページに複数の画像が含まれる場合などはアクセス履歴に複数の URL が残る。しかし、そのほとんどは役に立たない情報の場合が多いので、一定の条件で URL を抽出している。しかし、必要な情報があっても条件に該当しない場合抽出されない。

また、抽出された URL でも役に立たない情報も紛れている。今後の課題としては必要な URL だけを抽出出来るようにしたい。

[*1] Auto Book Mark
[*2] Everybadys Book Mark
[*3] Everybadys Book Mark the Next Generation